

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
地理総合, 地理探究	<p>—扱われた知識は基本的なものが多かったが、初見の資料からひもどく必要があった—</p> <p>第1問と第2問が「地理総合／歴史総合／公共」の『地理総合』との共通問題。複数の資料や初見の資料が用いられた設問が多く、設問の主題をとらえる力や、具体や理論をあてはめて論理的に考察する力が求められた。正確な知識に加え、自然現象のメカニズムや産業・貿易の背景を踏まえた考察を要求する設問もみられた。昨年と地理Bより難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■地理的事象について、「特に多いところはどこなのか」「そこにはどのような特徴があるのか」という視点で知識を身につけたい。また、地理的な読図技能を習得するために、資料の数値の変化や差異がみられる点に着目したり、分布を全体的にとらえて傾向をみいだしたりする演習を重ねることが大事である。 ■地理探究では、地理総合での学習を踏まえ、原理・原則から地理的事象をとらえる理解力と複数の事項を結びつける思考力が重要となる。単に知識を覚えるだけでなく、「なぜ、そうなのか」という視点を意識しながら要因を考察していき、概念やメカニズムの理解を深めたい。 ■学習した内容から「何ができるか」を意識することに加え、「具体と抽象」、「事象と背景」を往還させて地理的思考を働かせることで、知識を活かした初見の資料の読み取りに慣れておきたい。
歴史総合, 日本史探究	<p>—「菓子の探究」「四コマ漫画」など親しみやすい題材。背景や関連性が重視された—</p> <p>第1問は「地理総合／歴史総合／公共」の『歴史総合』と共通問題であった。大問数は6で昨年の日本史Bから変更はなく、解答数は32個から33個に増加した。蒙古襲来絵詞などの馴染み深いものから、ミルクキャラメルなどの広告まで多彩な資料が扱われ、受験生に身近な視点から出題された。資料読解を通じ歴史事象のつながりを考えることが重視され、難易は昨年と日本史B並であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■歴史総合では、日本と世界を区分することなく、問いに基づいて時代を大きくとらえることが求められる。近現代の歴史の大きな変化に関わる事象を理解し、個別の事例から時代の特徴をとらえる、ある概念にあてはまる具体例を考えるなど、探究プロセスを経験するなかで抽象と具体を往還して概念理解を深めたい。 ■日本史探究では、史資料の読解力増強に向け、教科書や資料集などでさまざまな史資料に慣れ、史資料から読み取れることを自分でまとめるなど、ポイントや主旨を把握する訓練を重ねることが大事である。加えて、さらなる探究や疑問の検証など、探究の仕方、調べ方の観点についての理解も深めておきたい。
歴史総合, 世界史探究	<p>—探究活動の場面において、資料読解や情報分析を通じ深い追究をうながす問題が出題された—</p> <p>第1問は「地理総合／歴史総合／公共」の『歴史総合』第2問と共通問題であった。多様な資料の読解と知識を組み合わせる問題が出題されたが、求められている知識は基本的なものが多く、昨年と世界史Bよりやや易化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■歴史総合では、日本と世界を区分することなく、問いに基づいて時代を大きくとらえることが求められる。近現代の歴史の大きな変化に関わる事象を理解し、個別の事例から時代の特徴をとらえる、ある概念にあてはまる具体例を考えるなど、探究プロセスを経験するなかで抽象と具体を往還して概念理解を深めたい。 ■基本的な知識をもとに、因果関係や他地域との関係に着目しながら、歴史上の出来事同士を相互に関連付けて考察する力が求められる。資料を活用し、歴史上の出来事を多面的・多角的にとらえる視点を意識しながら学習に取り組みたい。 ■具体的な歴史上の出来事について、概念的に理解する力が求められる。日頃から共通点や相違点に着目し、比較・分類の視点から考察することを意識したい。
公共, 倫理	<p>—新課程で追加された記憶や認知が扱われ、思考力が求められる問題も多く出題された—</p> <p>第1問・第2問は「地理総合／歴史総合／公共」の『公共』と「公共、政治・経済」との共通問題であった。倫理では、新課程で新たに追加された認知に関する心理学分野からの出題もあった。思想と具体例を結びつける問題や論理的思考力が求められる問題も出題され、多様な資料を用いて考察する問題も多くみられた。難易は昨年と倫理並。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の学習過程を想定した場面設定や設問が展開される。普段から、本文の構成や展開を的確にとらえ、論旨や内容を正確に読み取る力を身につけたい。 ■思想家や思想内容について、重要な語句や用語は単に覚えるだけでなく、原典資料に触れることも意識したい。また、さまざまな思想家の共通点や相違点、ほかの思想家や思想への影響や批判なども含めて理解を深めておく必要がある。 ■現代の諸課題やテーマについて、授業で学習した思想の視点から考える習慣をつけ、現代社会の課題をめぐって対立する主義や立場、それぞれの主張の論理的な根拠を理解し、具体例をさまざまな主義や立場に照らし合わせて考察したい。

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
公共、政治・経済	<p>—時事的なテーマを考察する問題が、資料読解とともに多く出題された—</p> <p>第1問・第2問は「地理総合／歴史総合／公共」の『公共』と「公共、倫理」との共通問題であった。全体として、資料を読み取り分析・考察する出題が目立った。時事的な現実社会の課題と知識を結び付けたり、解決に向けて構想したりする力が求められた。資料の単純な読み取り問題や4択の問題が増加し、難易は昨年より易化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の学習過程を想定した場面設定や設問が展開される。普段から、本文の構成や展開を的確にとらえ、論旨や内容を正確に読み取る力を身につけておく必要がある。 ■教科書で学習した事項を正確に理解しておくことに加え、時事的な課題について身につけた知識をもとに構想する力が求められる。国内や世界で起こっていることに目を向け、現実社会の課題を学習事項と結び付けて考察することで課題解決力を身につけたい。 ■概念や原理・原則などの抽象的な学習事項を、与えられた条件に当てはめて具体的に考察することが求められる。経済のしくみなど理解が難しい学習事項は、資料集や教科書に紹介されている事例も参考に、具体的な事例や制度に関連付けて理解を深めたい。
地理総合	<p>—生徒の仮説をもとにした探究場面に沿った大問が出題された—</p> <p>第1問と第2問は「地理総合、地理探究」と共通問題であった。多彩な資料をもとに、地理的な考察力が求められた。第2問は生徒の仮説をもとにした探究活動の場面設定で出題された。初見資料の理解に時間を要する問題もみられたが、全体としては基本的な知識と、資料を丁寧に読み取ることで判断できる問題が中心で、難易は標準。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■基本的な知識を初見資料から確認する問題が出題された。見慣れない形式や資料・指標での出題にも対応できるように、単に知識や出題パターンを覚えるだけでなく、各種事象についてその傾向性や背景を理解することを意識しながら学習を進めたい。 ■生徒の探究の過程を想定した設問や、複数の資料を関連付ける応用的な思考力を問う設問が出題される。出来事や資料などをさまざまな側面からとらえて考察するために、各種資料から必要な情報を取り出す力や、複数の事象を関連付けて、因果関係を理解する力を養いたい。教科書で扱われる内容が、地図帳や資料集のこういった資料にどのような形であらわれているのか確認する学習を意識したい。
歴史総合	<p>—事実理解だけではなく、資料から追究するプロセスに沿って思考する力が求められた—</p> <p>第1問は「歴史総合、日本史探究」、第2問は「歴史総合、世界史探究」との共通問題であった。多様な資料から情報を読み取り、知識と組み合わせることで判断する出題がみられた。また、探究的な学習場面で、主題について探究するための問いに適した学習活動を判断することや、資料の時期を推定する思考力が問われた。難易は標準。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■日本と世界を区分することなく、問いに基づいて時代を大きくとらえることが求められる。近現代の歴史の大きな変化に関わる事象を理解し、個別の事例から時代の特徴をとらえる、ある概念にあてはまる具体例を考えるなど、探究プロセスを経験するなかで抽象と具体を往還して概念理解を深めたい。 ■多様な資料を事実に基づいて解釈することが求められる。それぞれの資料の特性を踏まえながら、豊富で多様な資料に触れ、解釈することを重ねて、歴史事象を多面的・多角的にとらえる視点を身につけたい。
公共	<p>—哲学カフェやICTをテーマに抽象的概念や構想を具体例に当てはめる出題がみられた—</p> <p>第1問・第4問は「公共、倫理」「公共、政治・経済」との共通問題であった。人権や司法などの分野、企業や為替などの分野から政治・経済に関する基本的な知識が幅広く問われた。公共空間の形成に関するハーバーマスやアレントの思想に関する理解も問われた。多様な文章資料や統計を読解する力を問う出題がみられた。難易は標準。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書に書いてある抽象的な概念である、政治・経済の原理・原則や思想家の思想を単体の知識として暗記するだけでなく、探究的な活動において身近な事例と結びつけたり、自分自身がどのように関わり、働きかけていくかについて多面的・多角的に考察したい。 ■基本的な知識を活用して解き進める出題が多くみられる。教科書や資料集を活用して政治・経済やさまざまな思想に関連する基礎的な学習事項の内容やそれぞれの関係性について理解し、正確な知識を定着させたい。 ■統計資料や多様な文章資料、会話文の内容を、素早く、正確に読み取る力が求められる。日頃から資料が扱われた問題の演習を重ねておくことで、初見の資料問題にも対応できるようにしておきたい。

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
国語	<p>—第1・2問は単一テキストとなり、新設の第3問が言語活動に特化—</p> <p>大問数・設問数は昨年より増加したが、解答数は変更なし。近代以降の文章の3大問では、第1・2問は単一テキスト型となり、複数テキストや言語活動の設問は第3問に集約した形。古典の2大問は複数テキスト型での出題。大問数は増えたが、大部分が4択の設問となったこともあり、昨年より易化。</p>	<p>■単一のテキストを読解する設問に加えて、複数のテキストを比較・関連付ける応用的・発展的な思考力を問う設問や、言語活動の場面を想定した設問が出題される。まずは、一つひとつのテキストを正確に読解するために、文章構成や展開、表現の意図を的確にとらえ、論旨や内容を正確に読み取る力が求められる。そのうえで、複数のテキストの関連性をとらえる力や、日常の学習過程や言語活動において、根拠をもって自分の考えの主張や情報の発信を行う力を身につけたい。</p> <p>■漢字や重要語句、古典文法など、基礎的な知識を問う設問は引き続き出題される。日々の学習を通して、一つひとつの知識事項を習得しながら、その知識を実際の使用場面に応用して考えたい。重要語句の使用例文を考えたり、文脈をふまえて古文単語を一語ずつ訳出したりすることが効果的だ。</p>
英語 リーディング	<p>—大問数は8で、うち2題は試作問題と同様の新形式問題であった—</p> <p>昨年同様、日常的な文章から説明文まで様々な題材が扱われた。試作問題(令和4年度 大学入試センター公表)と同形式の問題を含む、8大問構成。与えられたテーマについて、提示された立場のエッセイを作成するために複数の資料を読んで論拠を整理する問題や、論理構成に配慮して文章を訂正する問題が新たに新設された。素材文語数が大幅に減少し、該当箇所を特定する際の複雑さが減少した一方で、まぎらわしい選択肢や、推論を要する設問が例年同様に含まれていた。昨年より易化。</p>	<p>■様々な素材を、限られた時間のなかで読む必要がある。日頃から多種多様な英文素材を短時間で読解する練習をし、さらに、複数の英文と図表の内容を組み合わせて考えるといった、情報処理をすばやく行うような学習をしたい。</p> <p>■「文章の論理構成や展開を正確に把握する力」を身につける必要がある。意見や主張を把握するだけでなく、それらをサポートする内容は何か、文章全体の論理構成を整理する練習をするとよいだろう。</p>
英語 リスニング	<p>—第5問は試作問題と同形式の出題。第6問Bでは話者が三人に減少—</p> <p>昨年に続き、音声情報とイラストや図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が出題され、場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた。第5問では試作問題(令和4年度 大学入試センター公表)と同形式の問題が出題され、より情報を統合的に処理する力が求められた。講義全体を理解する必要がある問題や、放送文からの言い換えに注意が必要な一部難しい問題もみられ、昨年より難化。</p>	<p>■これまで以上に、英文の音声情報や図表のような視覚情報など、複数の情報を統合的に整理しながら思考・判断する力が求められる。音声を聞く際は、具体的な場面・状況をイメージし、話者の意見や立場を把握しつつ、適宜メモをとりながら重要な情報を短時間で把握する練習を積むとよいだろう。また、普段から複数の技能を統合した言語活動に慣れておきたい。</p> <p>■日常の会話から社会的なテーマのモノローグまで、出題される素材のテーマ・形式は幅広く、また、イギリス人や日本人を想定したと思われる話者を含む出題も見受けられるので、日頃から様々な音声や問題形式に触れ、慣れておくるとよいだろう。</p>

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
物理基礎	<p>—重力加速度の大きさや、液体の比熱の測定に関する、探究的な出題があった—</p> <p>アトウッドの装置(滑車と二つのおもり)を用いて重力加速度の大きさを測定する探究課題や、電熱線から発生するジュール熱を用いて液体の比熱(比熱容量)を測定する実験など、実験が重視されており、新課程の観点を意識した出題がなされた。実験データを読み取ったうえで、誤差について考察させる問題が特徴的。難易は昨年並。</p>	<p>■日常の場面でみられる事物・現象について、教科書にある物理法則や公式と関連づけて、定量的・定性的に考察する習慣をつけておこう。また、身のまわりの物理現象についてディスカッションをするなど、物理基礎で学習した内容がどのような場面に関連しているのかを意識するようにしよう。</p> <p>■授業などで実験をする場合には、実験の設定や操作、結果にどのような意味があるのかを考察したり、仮説を立てて検証したりする習慣も身につけよう。また、データ処理やグラフの表し方・読み取り方についても身につけるとともに、実験の結果について比較・分析するなど、論理的に考察する経験を積んでおこう。</p>
化学基礎	<p>—アルゴンの発見や質量保存の法則を題材とする計算問題が出題された—</p> <p>第1問は、昨年同様に小問集合形式で出題された。物質の量的関係を正しくとらえて計算する問いがあった。第2問では、空気に含まれる気体成分の発見や質量保存の法則を取り上げた問いが出題された。測定結果から量的関係を正しく把握する問いや、数値そのものをマークする問いも出題された。難易は昨年並。</p>	<p>■共通テストでは、見慣れない実験を扱った問題が多く出題され、その原理や操作、結果からの考察などについて問われることが今後も予想される。教科書に掲載されている実験について、その原理や実験操作の意味をしっかりと理解しておき、実験結果から、作図や計算をするといった演習にも取り組んでおきたい。</p> <p>■情報を整理して内容を把握する問題や、表やグラフで表された内容から量的関係を考察する問題など、さまざまな種類の問題演習に取り組み、思考力を磨いておきたい。</p>
生物基礎	<p>—タンポポの再生力を題材に、仮説を検証させる探究的視点の問題が出された—</p> <p>昨年はみられなかった仮説検証に関する問題、会話形式の問題が出された。昨年同様、知識・理解のみで解答できる問題、知識を前提とした思考問題がバランスよく出された。解答数は昨年より増加し、選択肢の数が多い設問の割合も増えたが、取り組みやすい問題も多く、難易は昨年並。</p>	<p>■教科書に掲載されている重要用語は、単に覚えるだけでなく、図式化することを通して現象やしぐみを理解しておこう。そのうえで、設問文や図・グラフで与えられた情報と「生物基礎」の知識とを関連づけて考察する問題を解く練習を重ねておこう。</p> <p>■日々の学習で扱った観察・実験は、「どうしてその結果が出たのか」、「どうして結果からその結論が導かれたのか」という疑問をもつことを意識しよう。また、仮説を適切に検証するための対照実験の設定方法も確認しておこう。</p>
地学基礎	<p>—知識と図表にもとづいて災害について考察する問題が複数出題された—</p> <p>第4問では、自然災害や地球温暖化について時間・空間スケールを問う問題が出題され、津波堆積物や地震災害についても問われた。知識と図表から過去のできごとを推定したり、起こり得ることがらについて考察したりする幅広い問題が出題された。また、6択以上の問題が大幅に増加した。難易は昨年よりやや難化。</p>	<p>■分野間のつながりも意識しながら、教科書の基本的な知識を正確に身につけておこう。また、見慣れない図やデータを用いた問題に積極的に取り組み、与えられた情報と知識を組み合わせる力を養っておこう。</p> <p>■自然災害や環境問題、身近な気象について、学習した内容との関連を考えてみよう。また、図やグラフから必要な情報を読み取る力をつけるために、資料集や図説などを用いてさまざまな図やグラフに目を通すことを心がけ、文章や数値で書かれたものを図や表の形にまとめてみよう。</p>

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
物理	<p>—単振り子の周期を精度よく測定する探究活動の問題が出された—</p> <p>単振り子の周期を精度よく測定する探究活動に関する問題や、薄い媒質を伝わる振幅が異なる二つの正弦波の重ね合わせに関する問題など、思考力を要する問題が出題された。原子分野からは、電子線によるブラッグの条件を用いる問題が出題された。難易は昨年並。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書にある物理法則や公式は覚えるだけでなく、問題で与えられた条件に合わせて活用できるように練習しておこう。また、物理量の関係をグラフに表すことや、グラフから読み取れる情報をもとに、推測・判断する経験を積んでおこう。 ■探究活動に関する問題は、今後も出題が予想される。授業で行う実験では、得られた結果を考察して基本的な物理法則と結びつけることを意識し、より深い理解に繋がられるようにしておこう。
化学	<p>—読解力や計算力を要する問題が増加。バナジウムに関する設問が目新しい—</p> <p>問題文が長く読解力を要し、与えられた条件から段階的に考える問題が増加した。グラフを利用した問題数は減少し、計算問題の数は増加した。今年も、計算結果の数値そのものをマークする問題が出題された。重油中のバナジウムを題材とし、有機反応やエンタルピー、成分量を問う問題が目新しい。昨年より難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■対策として、教科書で扱われている知識を細部までしっかりと身につけることが有効である。教科書の本文中にある用語だけではなく、図やグラフまで丁寧に理解しておきたい。 ■共通テストでは、正答に至るまでの思考の段階が多く、題意の把握が難しい問題や、問題文やグラフをもとに考察をする問題も多くみられる。問題演習を通して、問題の概要を把握する力と、与えられた情報から解答に必要なものを適切に読み解く力を身につけておきたい。
生物	<p>—読み取る情報量は減ったが、実験を考察させる問題が多かった—</p> <p>昨年よりも大問数が1問減り、5大問必答となった。基本的な知識を問う設問と与えられた情報をふまえて初見の実験について考察する設問とがバランス良く出題された。読み取る情報量は減少したが、解答に時間を要する考察問題が多くみられ、難易は昨年並。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■既知の学習内容だけでなく、初見の図表やグラフなどが多く扱われ、さまざまな情報を読み取り考察する力が求められる。そのため、教科書に記載されている事項は、分野どうしのつながりを意識して身につけておく必要がある。また、教科書で扱われている実験は手順の理解なども問われるため、丁寧に理解しておきたい。 ■共通テストでは、実験考察問題だけでなく、グラフの解釈や仮説を設定する問題なども出題される。目新しい形式に戸惑わないように、日ごろから探究活動に主体的に取り組み、さまざまな資料に目を通す機会をもつようにしておきたい。
地学	<p>—地学における観測と観察や測定方法について幅広く問われた—</p> <p>第1問では地学における測定方法や観測機器について、昨年と同様に分野横断形式で出題された。第2問では地震波の伝わり方についてのやや複雑な計算問題が出された。第4問では旅行を題材とした気象・海洋についての知識が問われた。全体的に正確な知識と深い理解が必要な問題が多く、昨年より難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■図やグラフを用いた考察問題は、今後も出題が予想される。教科書や図説に掲載されている図やグラフからどのようなことが読み取れるのか考えることを心がけ、必要な情報を読み取る力を養おう。また、文章や数値で書かれた情報を、自分で図や表の形にまとめ直すなどの工夫をしながら図表の理解を深めよう。 ■教科書に掲載されている基本的な内容をまんべんなく身につけておこう。このとき、地学基礎の関連事項も合わせて確認しよう。そのうえで、共通テストの過去問に加えて模擬試験も活用し、分野を横断して関係の深い知識を体系的に理解しておこう。

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
数学Ⅰ, 数学A	<p>—外れ値や仮説検定の考え方、期待値の問題が出題された—</p> <p>第2問〔2〕「データの分析」は、新課程で扱われるようになった外れ値に関する問題や、仮説検定の考え方に関する問題が出題された。第4問「場合の数と確率」は、ゲームの参加料の設定を題材に、期待値を活用して設定の妥当性を考える問題が出題された。誘導が丁寧な問題が多く、難易は昨年並。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常の事象を題材とした問題や対話文を含む問題などでは、問題文が長く、じっくり読んでいては時間切れになってしまう可能性が高い。問題文から必要な情報を素早く抜き出し、その意味を正しく把握する訓練を積んでおきたい。 ■ 基本的な問題で確実に得点を重ねられるように、各分野の定理・公式の定着を確認するような問題の演習は必須である。さらに得点を伸ばすためには、一度取り組んだ問題について、各設問で用いた条件を改めて整理したり、類題に取り組んだりするなど、日ごろの学習から1題1題の復習を丁寧に行うことが重要である。
数学Ⅱ, 数学B, 数学C	<p>—仮説検定の問題が出題され、「平面上の曲線」からの出題はなし—</p> <p>第2問「指数関数・対数関数」では、共通テスト本試験で初めて常用対数表を利用する問題が出題された。第5問「統計的な推測」では、新課程で扱われるようになった仮説検定の問題が出題された。第7問は、「複素数平面」のみからの出題であった。全体的に分量が多い問題がならび、昨年よりやや難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 対話文が含まれる問題や文章量が多い問題を解く際は、情報を素早く正確に整理し、効率的に問題を解き進めることが重要である。そのため、解答に必要な情報はどこにかかっているか、読みかえることができる条件は何か、などを意識して問題から読み取れる情報を素早く正確に処理するようにしよう。 ■ 共通テストと言えども、教科書レベルの基本的な問題も一定割合出題されている。まずは教科書の基本事項をおさえ、そのうえで定理・公式を、その成り立ちや証明なども含め理解しておこう。また、日ごろの授業で扱われた事柄の逆が成り立つかを確認するなど、視点を変えて考察することで問題への理解を深めたい。
情報Ⅰ	<p>—幅広い分野から出題され、設問の状況を丁寧に読み取ることで十分に対応できる問題であった—</p> <p>令和4年度に公開された試作問題とほぼ同じ出題分野と大問4問による問題構成であった。第3問のプログラミングは工芸品を製作する担当の割当てを自動化するアルゴリズム、第4問は観光に関するデータを用いたグラフや図の読み取りについて出題された。試作問題同様、制限時間内に素早く正確に題意を読み取り、解答に結び付ける力が必要であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今回が初めての共通テストでの出題となった情報Ⅰだが、来年度以降も問題文を丁寧に読み取る必要がある問題が多く出題される傾向は変わらないものと思われる。限られた時間の中で、必要な情報を問題文の中から素早く正確に抜き出す訓練を積んでおきたい。 ■ 情報Ⅱには、シミュレーション、プログラミング、データの活用など、実際に自分の手を動かして実習してみることで理解が深まる分野が多い。こういった分野は共通テストでも継続的に出題されることが想定されるため、早いうちから実習の機会を多く確保し慣れておくことで、問題の場面理解や問題文の条件からの思考・判断ができるようにしたい。